

医薬看参加のIPE実施

薬学生が他学部視点に刺激

大阪医科薬科大学は5日、医薬看3学部の全学生約480人が参加する多職種連携教育（IPE）を大阪府高槻市の阿武山キャンパスで実施した。学生は3学部混成の40グループに分かれて具体的な症例の課題解決策を討議し、その

大阪医薬大

内容を発表した。学部の壁を越えた討議を通じて薬学生は、本人や家族の意志、生活に重きを置く医学生や看護学生の視点に刺激を受けたという。各学年で段階的に展開するIPEを、来年度以降さらに拡充する計画だ。



具体的な症例への対応を3学部混成のグループで討議した

3学部合同で行うIPEの一つで、医療倫理をテーマにした今回の授業には、医学部4年生、薬学部3年生、看護学部3年生生総勢482人が参加した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、2021年度はオンラインでの実施、22年度は対面の半日のみの実施となったが、今年度は初めて計画通り丸1日かけて対面での実施できた。

学生は、薬学部の中村敏明教授は「各グループの発表には、患者や家族の話聞き、その意志を尊重して対応する」という考え方が共通していた。しっかりした議論が

「多職種連携で各職種の専門性を認識するのは重要だが、それより前に医療人の一人として、どう振る舞ったら良いのかを薬学生が考えるきっかけになってほしい」と期待を語る。

2大学の統合で21年に発足した大阪医薬大は、IPEの展開に力を入れていく。医薬看3学部の学生全員が一堂に会する機会は、そのほかに1年次の新入生合同研修がある。3学部混成のグループ討議は薬学部の2年次、6年次にも設けられているが、薬学部は学生数が多いため選択科目での運用となっている。

「多職種連携で各職種の専門性を認識するのは重要だが、それより前に医療人の一人として、どう振る舞ったら良いのかを薬学生が考えるきっかけになってほしい」と期待を語る。

2大学の統合で21年に発足した大阪医薬大は、IPEの展開に力を入れていく。医薬看3学部の学生全員が一堂に会する機会は、そのほかに1年次の新入生合同研修がある。3学部混成のグループ討議は薬学部の2年次、6年次にも設けられているが、薬学部は学生数が多いため選択科目での運用となっている。

「多職種連携で各職種の専門性を認識するのは重要だが、それより前に医療人の一人として、どう振る舞ったら良いのかを薬学生が考えるきっかけになってほしい」と期待を語る。

2大学の統合で21年に発足した大阪医薬大は、IPEの展開に力を入れていく。医薬看3学部の学生全員が一堂に会する機会は、そのほかに1年次の新入生合同研修がある。3学部混成のグループ討議は薬学部の2年次、6年次にも設けられているが、薬学部は学生数が多いため選択科目での運用となっている。

「多職種連携で各職種の専門性を認識するのは重要だが、それより前に医療人の一人として、どう振る舞ったら良いのかを薬学生が考えるきっかけになってほしい」と期待を語る。

2大学の統合で21年に発足した大阪医薬大は、IPEの展開に力を入れていく。医薬看3学部の学生全員が一堂に会する機会は、そのほかに1年次の新入生合同研修がある。3学部混成のグループ討議は薬学部の2年次、6年次にも設けられているが、薬学部は学生数が多いため選択科目での運用となっている。

「多職種連携で各職種の専門性を認識するのは重要だが、それより前に医療人の一人として、どう振る舞ったら良いのかを薬学生が考えるきっかけになってほしい」と期待を語る。

2大学の統合で21年に発足した大阪医薬大は、IPEの展開に力を入れていく。医薬看3学部の学生全員が一堂に会する機会は、そのほかに1年次の新入生合同研修がある。3学部混成のグループ討議は薬学部の2年次、6年次にも設けられているが、薬学部は学生数が多いため選択科目での運用となっている。

「多職種連携で各職種の専門性を認識するのは重要だが、それより前に医療人の一人として、どう振る舞ったら良いのかを薬学生が考えるきっかけになってほしい」と期待を語る。

拡充に向けて選択科目の必修「医療人マインド」に、修化やグループ討議の機会増などに取り組む考えだ。来年度は、1年次の合同講義として設ける計画としている。